



2022年11月30日
第82号

JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



イーハトーブ

11月30日号

JR東日本の第2四半期決算は増収増益、3期ぶりの黒字転換であった。黒字を実現してきた社員は年末手当に期待をしていたが、JR東日本会社の年末手当回答はJR東労組の要求とは程遠いものだった。未加入者からもあまりの低額回答に「この会社に希望も未来もない」というような不満や落胆の声が聞かれた。

新型コロナウイルス感染症の第7波では、社員の感染や濃厚接触者扱いで人員が足りなくなり、休日出勤、勤務変更または超勤で現場の社員が対応し、列車の安全・安定輸送を守ってきた。さらには物価上昇により日々の生活にも努力を強いられている。この回答が本当に社員の事を考え、覚悟を持った会社としての最大限の回答だったのか。職場や社員の現実と会社回答の乖離に怒りを感じる。

しかし、一方で「〇〇社友会の声を受け止めていただいた結果」「(社友会が)要望を支社経営陣にしています、そうした部分もしっかり受け止めた内容」というこの低額回答を評価する社友会の声もある。

「自分は言われたから社友会に入っただけ」「社友会に入っているけれど何も活動をしていない。意見聴取をされたことがない」という社友会会員もいるが、活動しようがしまいが社友会会員である限り、低額回答でも大満足している社員と会社は受け止める。つまり社友会会員である限り自分の本音は会社に届かず、社友会が存在する限り今後も低額回答しか見込めない。

待っていても何も変わらない。社友会と決別し、JR東労組の旗のもとへ結集しよう。そして「安全・健康・ゆとり・はたらきがい」のある職場を実現しよう。(N・O)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちが外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。